

令和 2 年 9 月 3 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02166

研究課題名（和文）根源的批判としての哲学の再構築 世間知の解体と刷新をめぐる比較思想史的研究

研究課題名（英文）Reconstruction of philosophy as radical criticism: a research on the destruction and innovation of common knowledge from the perspective of comparative history of thought

研究代表者

森川 輝一（morikawa, terukazu）

京都大学・法学研究科・教授

研究者番号：40340286

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、真理探究の営みである哲学が元来有していた、常識や社会通念をラディカルに解体する「根源的批判」としての機能を、西洋・中国・近代日本にまたがる比較思想史的視座から再検討し、その現代的意義を探究した。その成果は、哲学・倫理学・宗教哲学・政治哲学といった各分野の学会、論文、図書をつうじて公表された。代表的なものに、宮野真生子『出逢いのあわい 九鬼周造における存在論理学と邂逅の倫理』（堀之内出版）がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、根源的批判としての哲学のあり方を比較思想史的に考察することをつうじて、哲学が（1）人々が信奉する世間知をラディカルに解体するとともに、（2）批判的思考を喚起することで人々自身が倫理・政治・宗教などをめぐる既存の通念をみずから問い直すことをつながし、（3）相互批判を実践する新たな対話の空間を開く営みであることを、明らかにした。この洞察は、哲学を、大学という制度に支えられた単なる専門知にとどめず、日々の生活にねざした批判的対話という、真の意味で公共的なアクチュアリティをもつ根源的批判知の実践として捉え直すうえで、貴重な貢献をなすものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This project aimed at reexamining the essence and actuality of philosophy as radical criticism of common sense and conventional knowledge through comparative researches on the Western, Chinese and Japanese history of ideas. The fruits of the project were published through presentations at various academic conferences, journal articles and books, such as MIYANO Makiko, Contingency and Encounter: Logic of Existence and Ethics of Chance Encounter in Shuzo Kuki (Horinouchi-shuppan, 2019).

研究分野：思想史

キーワード：哲学 比較思想史 批判 社会批判 世間知

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現代政治哲学では、「哲学」を、公共的实践や市民的啓蒙と矛盾せず、むしろ協働・融合する営みと見做す傾向が強まっている。その代表が、政治哲学の課題を公正な社会の基本構造とそれを支える市民の育成と位置付けるロールズの自由主義理論や、理性的対話の導入による民主政治の再活性化をはかるハーバーマスの熟議理論であるが、これに呼応するように、哲学分野では、「哲学カフェ」や「公共哲学」など、哲学の实践的意義を追求する試みが盛んである。こうした動向は、哲学知の公共化・民主化として歓迎すべき事態ではあろう。だが、トクヴィルが予見しオルテガが慨嘆したように、民主化・平等化が大衆化・凡庸化と不可分であるとすれば、哲学に求められているのはむしろソクラテス的な批判、すなわち人々の無理解さらには迫害をも恐れず真理を愛求し、世間知を徹底的に解体し、刷新することではないのか。哲学を、開かれた知的営為として活かしてゆく道を探りつつ、根源的批判という哲学本来のあり方を今一度捉え直す必要があるのではないのか。

2. 研究の目的

上記の背景にもとづき、哲学という営みを根源的批判という視座から捉え直すという問題意識のもと、多様な思想的伝統のなかで展開されてきた批判知のかたちをめぐる比較思想史的研究を行う。具体的には、政治哲学、倫理学、宗教哲学、中国思想、近代日本思想、という5つの領域ごとに世間知に対する哲学的批判のあり方を浮き彫りにした上で、それらの共通点と差異を検討することで、過去の多様かつ豊饒な思想的伝統を踏まえつつ、今日的な課題に応え得る新たな批判知としての哲学の再構築をめざす。

3. 研究の方法

研究目的を達成するために、各領域における様々な哲学的批判のあり方を明らかにしつつ、相互に比較検討を進める、という方法をとる。政治哲学領域では、アーレントとハイデガーの思想的対決などを中心に、西欧哲学における政治批判のあり方を再検討する。倫理学領域では、時間論の観点からのヒューム倫理哲学の再検討などを中心に、哲学的な社会批判と社会的共生という倫理的要請との接点を探求する。宗教哲学領域では、死者およびその記憶をめぐる思考がもつ、生者中心の社会通念を批判する契機に着目しつつ、人間の尊厳をめぐる宗教哲学的省察を進める。中国思想領域では、荀子の心術などを焦点に、権力政治と政治的理念のはざまで、政治批判と政治参加の接点をさぐる思考様式を浮き彫りにする。近代日本思想領域では、九鬼周造や田辺元など京都学派の哲学的思索の意義を、近代化する日本社会における新たな批判知の構築という観点から捉え直す。こうした各領域の研究成果を踏まえ、定期的に共同研究会を開催して活発な議論と相互批判を行うとともに、西田幾多郎記念哲学館(石川県かほく市)にて市民講座や哲学カフェなどの企画運営に携わっている同館研究員の中嶋優太氏の協力を仰ぎ、人々が自らの生のありようを日々の暮らしのなかで問い直す、いわば日常生活に根差した哲学知の可能性を検討する。

4. 研究成果

本研究の成果は、大きく分けて二つある。第一に、思想史における「批判」の位相や様態の多様性が明らかにされた。一方の極には、犬儒派や初期キリスト教のように、世間知への根源的批判を社会の存在そのものに向け、一切の社会的共生からの離脱あるいは超克によって人間の本来の生を追求しようとする視座があり、他方の極には、近代西欧啓蒙思想のように、批判の場を言論の自由にもとづく相互批判という公共的实践に開いてゆく視座がある。そして第二に、こうした多様な批判のあり方の比較検討を通じて、それら両極のいずれかのみ偏ることなく、両者のはざまに立ち、他者との間に新たな批判知の空間を開いていく点に、根源的批判としての哲学のポテンシャルが発揮されることが明らかにされた。以上から、根源的批判としての哲学の特質と可能性を、以下の三点にまとめることができよう。すなわち、哲学とは、(1) まずもって人々が信奉する世間知をラディカルに解体する根源的批判でなければならないが、(2) それを通じて人々自身が倫理・政治・宗教などをめぐる既存の通念をみずから問い直すことをうながすという啓蒙的機能をはたし、(3) さらにそこから他者との間に新たな批判的対話の空間を開く公共的实践に結びついてゆく。この洞察は、哲学を、大学という制度に支えられた単なる専門知にとどめず、日々の生活にねざした批判的対話という、真の意味で公共的なアクチュアリティをもつ根源的批判知の実

践として捉え直すうえで、貴重な貢献をなすものと考えられる。

こうした成果は、哲学の今日的意義を、大学という制度に支えられた単なる学知ではなく、哲学カフェなどをはじめとする市民的实践を含む、真の意味で公共的なアクチュアリティをもつ「根源的批判知」として捉え直すうえで、貴重な貢献をなすものと考えられる。これらの成果は、5で挙げる論文・図書等で公表されているほか、「アカデミックカンファレンス 社会における思想の役割」(2017年9月30日、東京)の共催などに結実した。また、こうした研究成果の一部をおさめた論文集が公表される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐藤啓介	4. 巻 36号
2. 論文標題 死者の尊厳 の根拠 下からの死者倫理の試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教哲学研究	6. 最初と最後の頁 29-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤啓介	4. 巻 46巻13号
2. 論文標題 考古学者が読んだハイデガー 考古学者はそこに何を発掘したのか？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 194-204頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤実	4. 巻 20号
2. 論文標題 『荀子』の「術」について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大妻比較文化	6. 最初と最後の頁 69-88頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮野真生子	4. 巻 5号
2. 論文標題 「いき」な印象とは何かー「いき」をめぐる知と型の問題ー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社藝堂	6. 最初と最後の頁 93-112頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥田太郎	4. 巻 vol. 2
2. 論文標題 (共依存し続ける)自由からの逃走?:小西真理子『共依存の倫理』へのコメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館生存学研究	6. 最初と最後の頁 9-12頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥田太郎	4. 巻 第16号
2. 論文標題 ヒューム道徳哲学における時間について:ヒューム的な「時」を求めて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アカデミア 人文・自然科学編	6. 最初と最後の頁 81-92頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15119/00002377	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川輝一	4. 巻 第105号
2. 論文標題 民主主義とは何か-政治思想史的考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 松山大学総合研究所所報	6. 最初と最後の頁 91-111頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤啓介	4. 巻 3
2. 論文標題 活動と暴力、活動の暴力 リクールとアーレント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Arendt Platz	6. 最初と最後の頁 7-11頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川輝一	4. 巻 4
2. 論文標題 引かれ者の小唄 「大陸系」政治哲学が語ろうとすること、「分析系」政治哲学が語らないこと	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 u (ニクス)	6. 最初と最後の頁 262-275頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川輝一	4. 巻 32
2. 論文標題 ハイデガーからアレントへ ハイゼンベルク「不確定性原理」との対向を手がかりに	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 実存思想論集「アレントと実存思想」	6. 最初と最後の頁 29-55頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮野真生子	4. 巻 第49巻第4号
2. 論文標題 偶然性の役割とは何か 『社会存在の論理』と『偶然性の問題』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡大学人文論叢	6. 最初と最後の頁 929-953頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥田 太郎	4. 巻 5巻
2. 論文標題 喫煙規制強化に関する倫理的考察 禁煙の自由を擁護する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法と哲学	6. 最初と最後の頁 1-24頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 啓介	4. 巻 58巻
2. 論文標題 悪しき人間とその尊厳 「神の像」の宗教哲学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本の神学	6. 最初と最後の頁 186-192頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤実	4. 巻 21号
2. 論文標題 「淫」な音楽について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大妻比較文化	6. 最初と最後の頁 66-80頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 佐藤啓介
2. 発表標題 悪しき人間とその尊厳 宗教哲学の観点から
3. 学会等名 日本基督教学会第66回学術大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮野真生子
2. 発表標題 言葉に出会う現在－永遠の本質を解放する－
3. 学会等名 西田哲学会第16回年次大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥田太郎
2. 発表標題 何が同一であれば人間は変化に耐えうるか：人新世 + トランスヒューマニズム + Post-Truthと倫理学
3. 学会等名 日本学術会議哲学委員会主催公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤啓介
2. 発表標題 死者への敬意の基礎づけは可能か 死者倫理と宗教哲学
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤啓介
2. 発表標題 活動と暴力 リクールとアーレント
3. 学会等名 アーレント研究会第16回大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤啓介
2. 発表標題 宗教哲学は現在どのように語られているのか
3. 学会等名 日本宗教学会第76回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤啓介
2. 発表標題 死者の尊厳 の根拠 二つの死者倫理
3. 学会等名 宗教哲学会第10回学術大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森川輝一
2. 発表標題 批判的現実主義の可能性：政治的思考の再生のために
3. 学会等名 第1回日韓共同フォーラム「東アジアにおける「批判言説」のパラダイム転換に向け」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森川輝一
2. 発表標題 現代民主主義の隘路 アーレント研究の視角から
3. 学会等名 松山大学所報研究助成研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮野真生子
2. 発表標題 現在の動性と偶然性への視座 『社会存在の論理』と『偶然性の問題』
3. 学会等名 第五回田辺哲学シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮野真生子
2. 発表標題 カウンターというつながり 『深夜食堂』から考える
3. 学会等名 The Conference “Modernity Thinking in Taiwan and Japan: ‘Eating’ and the Cultural Base” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥田 太郎
2. 発表標題 Hume’s Moral Sentiments and Moral Particularism
3. 学会等名 UK-Japan Special Conference: Aspects of Early Modern British Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤 啓介
2. 発表標題 他者論と死者論 死者倫理の宗教哲学的考察
3. 学会等名 日本宗教学会第78回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森川 輝一
2. 発表標題 誕生と死、出生性と被投性 アーレントの「政治」とハイデガーの「倫理」をめぐる一考察
3. 学会等名 ハイデガー・フォーラム第14回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 社会思想史学会（編）（編集委員、森川輝一他）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888頁（614-617）
3. 書名 社会思想史事典	

1. 著者名 川崎修、萩原能久、出岡直也、森川輝一、空井護、伊藤孝之、保坂稔、森分大輔、山本信人、中野勝郎、松本礼二	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 296頁（3-28）
3. 書名 アーレントと二〇世紀の経験	

1. 著者名 奥田太郎、芝垣亮介、大澤広晃、後藤剛史、佐藤啓介、今井達也、佐々木克巳、宮原佳昭、松川寛紀、松川由実、高田一樹、坂本 登、加地大介	4. 発行年 2017年
2. 出版社 さいはて社	5. 総ページ数 224頁（8-18, 20-24, 90-102, 192-207）
3. 書名 失われたドーナツの穴を求めて	

1. 著者名 奥田太郎、唐沢穰、松村良之、膳場百合子、後藤伸彦、塚本早織、木下麻奈子、藤本亮、長谷川真里、村上史朗、今井猛嘉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 328頁（239-260, 277-304）
3. 書名 責任と法意識の人間科学	

1. 著者名 福島清紀、澤田直、奥田太郎（編）、佐藤啓介（編）、佐藤実（編）、宮野真生子（編）、森川輝一（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 工作舎	5. 総ページ数 392頁（2-6, 331-332, 342-353, 378-385）
3. 書名 寛容とは何か 思想史的考察	

1. 著者名 宮野 真生子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 堀之内出版	5. 総ページ数 328頁
3. 書名 出逢いのあわい	

1. 著者名 宮野真生子、磯野真穂	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晶文社	5. 総ページ数 256頁
3. 書名 急に具合が悪くなる	

1. 著者名 H・コリンズ、R・エヴァンズ、奥田 太郎（監訳）、和田 慈、清水 右郷	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 220頁
3. 書名 専門知を再考する	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥田 太郎 (OKUDA Taro) (20367725)	南山大学・人文学部・教授 (33917)	
研究分担者	佐藤 啓介 (SATO Keisuke) (30508528)	南山大学・人文学部・准教授 (33917)	
研究分担者	佐藤 実 (SATO Minoru) (70447671)	大妻女子大学・比較文化学部・教授 (32604)	
研究分担者	宮野 真生子 (MIYANO Makiko) (40580163)	福岡大学・人文学部・准教授 (37111)	
研究協力者	中嶋 優太 (NAKAJIMA Yuta)	西田幾多郎記念哲学館・研究員	